

## 第4回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会会議議事録

平成25年2月18日（月）

中津川市健康福祉会館4階多目的ホール

【司会】 それでは、定刻となりましたので、ただいまより、第4回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会を開催させていただきます。

本日は、お忙しいところ、また、お足元の悪い中を皆様お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の進行を務めさせていただきます企画部技監の安保でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、お配りさせていただいております名簿の中で、急遽、区長会連合会の鈴木様と文化協会の波多野様、王子エフテックス(株)の内田様が欠席となりましたので、お知らせをさせていただきます。

それでは、中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会の竹内委員長からご挨拶を頂戴いたしたいと存じます。

竹内委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】 竹内でございます。

もう何回目かの委員会になりますので、特にご挨拶申し上げることはございませんけれども、今日は多分、24年度の最終の委員会になるかと思えます。皆さんの机の上には、きれいな絵を描いた表紙の報告書の素案が乗っております。順調に皆さんにいろいろ分科会等でも議論していただきまして、こういう素案がまとまるまで来た、大変喜ばしいことでございます。今日は、そういう意味で重要な位置づけの会議かと思えますので、どうぞよろしく、慎重かつ要領よくご議論をいただきますようお願いいたします。

それでは、簡単でございますけれど、挨拶はこの程度にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

ここで、1月4日付で中津川市の副市長に大井久司が新たに就任をいたしまして、本策定委員会の副委員長を務めさせていただくこととなりましたので、自己紹介をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

大井副委員長、よろしくお願いいたします。

(副委員長挨拶)

【司会】 ありがとうございます。

それでは、ここで資料を確認させていただきたいと思いますが、その前に、リニアのまちづくりビジョンの素案につきましては、私どもの不手際によりまして、事前に全編を皆様に送付させていただくことができませんでした。一部本日の追加配付となりましたことをまず先にお詫びいたします。どうもすみませんでした。

それでは、本日新たに配付させていただきました資料といたしまして、まず、議事の次第と資料の1-1、地域委員会・各地域協議会の地域づくり計画書、資料1-2、女性・若者委員会のリニアの時代に思い描く理想のまちを実現するためにというものと、資料2、リニアのまちづくりビジョン素案の要点、それから、先に送れなかったビジョン素案の中の第4章の4-4と4-5、43ページから46ページの分と、第6章の91ページから104ページの分でございます。最後に、資料3としまして、今後の進め方ということで、ビジョン策定のスケジュールという、以上の資料を配付させて

いただいております。足りない資料がございましたら、お知らせをお願いいたします。

それでは、報道機関の皆様をお願い申し上げます。写真撮影はここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本策定委員会につきましては、議事録を公開することとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入らせていただきます。

議事の進行につきましては、竹内委員長をお願い申し上げます。

竹内委員長、よろしくお願いいたします。

**【委員長】** それでは、早速議事を進めることにいたします。

本日の議事ですが、お手元に次第がございますけれども、3つに分かれております。2が今日の主議題でございます。この順を追って話を進めてまいりまして、その後、その他の何かご説明があるかもしれません。

それでは、最初に、議事1ですが、各種委員会での検討結果についてということで、地域委員会・各地域協議会の検討結果と、それから、2番目に、女性・若者委員会の検討結果についてご報告をいただくことにいたします。

まず初めに、地域委員会・各地域協議会の検討結果について 地域委員会の副委員長でいらっしやいます花田委員からご説明をお願いいたします。

**【委員等】** 本日、中島委員長が所用によりまして欠席いたしておりますので、副委員長を仰せつかっております花田でございます。代わってご報告申し上げますので、よろしくお願いいたします。

市内15の地域協議会などでは、リニアの波及効果を地域づくりに活かすために地域が抱える問題や取り組むべき課題を整理いたしまして、既存の地域づくりビジョンなど、策定した地域づくり計画をベースにいたしまして、リニアの波及効果を踏まえた新たな視点で地域づくりのアイデアを検討し、その取り組みの方向といたしまして、本日配付資料にありますリニアの波及効果と地域特性を活かした地域づくり計画書としてとりまとめてまいりました。

各地域におかれまして、主な課題や問題点といたしましては、1番目としましては、各地域とも人口減少、少子高齢化に伴う農林業など地場産業の後継者不足や地域コミュニティの維持について検討されました。それから、2番目としましては、医療、福祉、防災、道路、公共交通や公共施設といった日常の暮らしの充実について問題点が提起をされました。

挙げられましたこうした問題点をリニアの開業による波及効果に絡めて解決していく取り組みの方向性の1つ目としまして、地域の自然や歴史文化を活かした観光振興やにぎわいの創出、2つ目といたしましては、農林業、工業、地場産業など産業振興による働き場の創出、3つ目としまして、リニア車両基地の従業員などをターゲットといたしました移住・定住の促進といった地域独自の持ち味を活かした取り組みを挙げておられます。

1月29日に開催いたしました第3回の地域委員会におきましては、各地域の地域づくり計画書をもとにまとめましたビジョンの素案の第5章の5-2、75ページ以降90ページまでになりますが、各地域の具体的取り組みについて意見交換を行ってまいりました。今後は、各地域協議会におきまして、このビジョンの素案の内容について再度検討を行いまして、その結果をリニアのまちづくりビジョンに反映していく予定で取り組んでおりますので、よろしくお願いいたします。

以上が、地域委員会並びに各地域の地域協議会の検討状況のご報告といたしますので、よろしくお願いいたします。

**【委員長】** ありがとうございます。

ご質問なんかもある方がいらっしゃるかもしれませんが、次の報告をあわせましてちょっと時間を

とりたいと思います。

それでは、続きまして、女性・若者委員会の検討結果について、同委員会の委員長であります前田委員からご説明をお願いいたします。

【委員等】 女性・若者委員会委員長の前田です。ご報告させていただきます。

女性・若者委員会では、リニアのまちづくりを検討するにあたり、女性・若者の視点から検討を行うために、初めに、資料1 - 2の中の1ページにあります、青字で書いてあります、未来の若者、子どもたちを想像して、こうなっていればいいなという理想のまちをイメージした8つのテーマを出し、これを実現するためのアイデアについて、あらかじめ委員だけではなく周りの方々にも意見を聞きながら、3つのグループに分かれてワークショップを行いました。

ここで出された意見については、資料1 - 2で8ページから18ページにまとめてありますので、ご覧ください。非常に幅広い分野でありとあらゆるアイデアが出されたと思っております。これらのアイデアをまとめると、7ページにございますAからJの10の分野に大きく分けられ、ここで出されたアイデアは、事務局がビジョン素案を作成する上で、ビジョン素案第5章、市民みんなが取り組んでいくことの各分野の具体的な取り組み方策のベースになったと伺っております。

その後、全体討議の中で、全ての分野を満遍なく検討するだけではなく、女性・若者として特にこだわりたい部分は何なのかを示すべきではないかというご意見をいただき、引き続き、女性・若者としてのこだわりについて話し合った結果、出された意見を第2章の女性・若者の考えるまちづくりに対するこだわりとして4ページ以降にまとめましたので、少しご紹介をさせていただきます。

全部で4つのこだわりを挙げました。

1つ目は、「若者が地元で働き、地元で暮らすための雇用の創出にこだわる」というものです。子どもを持つ親の一番の願いは、家族みんなが一緒に暮らせるということから、若者の都会への流出を防ぐため、リニアの波及効果を活かして地元で働く場所の数と種類を増やすことに取り組んでいく必要があります。そのための手法として、1つ目は、地場産業、地元企業の活力アップと観光振興による地元経済を活性化させる。2つ目には、3大都市圏に1時間以内で行き来できる便利さと安い地価を活かして、今までの中津川にはなかった様々な企業や施設をこの地域に引っ張ってくる。3つ目は、リニア通勤や情報網を使ったテレワークなどにより、地元に住んだまま都会で働く、の3つを挙げました。この分野では最も多くのアイデアが出され、女性・若者委員会の強い思い入れが感じられる結果となっております。

2つ目は、まさに小さな子どもを持つ親ならではのこだわりとして、「地域を創る人づくり、教育・子育てにこだわる」というものです。それには、まず、学校、幼稚園、保育所などの施設環境をきちんと整えた上で、カリキュラムの充実や体験型学習などにより教育の質を向上する必要があります。また、学力の向上とは別に、ふるさとに愛着があり、これからのこの地域を担う「地域を創る」人材を育てるために、学校だけではなく、地域や家庭における「ふるさと教育」の重要性についても多くの意見が出されました。

3つ目は、リニアによって変わること、変えていくことと同時に、変わらないこと、守ることの重要性について多くの意見が出されたことから、「豊かな自然や景観などの中津川らしさにこだわる」としました。新しいまちづくりを進める一方で、豊かな自然や景観、歴史文化を守っていかなければなりません。そのためにはきちんとした土地利用や開発のルールをつくり、まちづくりを成り行きに任せるのではなく、「進めるものは進める」「守るものは守る」ということを、明確な意思とルールに基づいて進めていくことが必要です。

4つ目は、「他にないオリジナルの地域資源にこだわる」ということで、全国で、全世界で中津川にしかない地域資源であるリニアと車両基地を活かし、マニアックな観光の目玉につくりだそうというものです。そして、秋葉原がアニメの聖地であるように、いつか中津川がリニアの聖地と呼ばれる日が来るように取り組んでいくことが必要です。

最後に、私たちの行った議論やアイデアが、少しでもこれからのリニアのまちづくりのお役に立つことを期待するとともに、これからもみんなで一緒になってまちづくりに取り組みながら、このまちを未来の若者や子どもたちにとってもっともっと住みよいまちにしていきたいと考えております。

以上、女性・若者委員会のご報告です。

**【委員長】** ありがとうございます。

それでは、今、お二人の方からご報告をいただきましたけれども、この点について何かご質問あるいは追加的なコメントがある方がいらっしゃいましたらお聞きしたいと思います。いかがですか。

今報告いただいたことの内容というのは、後のリニアのまちづくりビジョンの素案を検討いただく中に反映されているとは思いますが、この段階で今のご報告に何か聞いておきたいことがありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょう。

ありませんでしたら、また後のビジョンの方でお話しいただければいいかと思っておりますので、ちょっと私の感想的なコメントだけ加えさせていただいて、次へ行きたいと思っております。大変2本とも結構なご報告で、内容はいわば非の打ちどころのない形になっていると思っております。思いますが、口で言っているだけという感じがして、それぞれに盛り込まれていた、こういうまちにしたい、こういう地域にしたいというような願望について、だからこういう運動をしようとか、こういう働きをみんなでやろうとか、あるいは市の方でこういうことを手伝ってくれとか、そういうような具体的なお話にまではまだ結びついていないような気がいたしますね。これは当然これからやっというご報告でございますから。ただ、その取っかかりのところで、要するに地域の良さ、それから、中津川の良さ、あるいは中津川を中心とする周辺の裏木曾といいますか、木曾の入り口といいますか、こういうところの良さ、そういう問題について、いいはずだ、いいぞいいぞ、今自分たちのやっている生活はいいぞと言っておられるんですけど、やっぱりその中で生活しておられるから、なかなかいいところ、何がいいのかとかいうことに気がつかれていない。特に地場産業を起こしていきたい、観光産業を起こしていこうというようなことを考える場合には、やっぱりよその人たちの視点に立って、何がこの地域の資源であるかということを見ないといけないですね。その点がやはり少しまだ欠けているような感じがいたします。

私は、この後の活動をやっという中で、ちょっとご提案したいのは、皆さんのそれぞれの地域から、よそに、特に首都圏や東京や、あるいは関西か名古屋かもしれません、出て行って活躍しておられる皆さんのお仲間がいると思うんですね。そういう人たちをたくさんである必要はないんですけど、話のつくような人を呼んで、そういう人たちに自分の故郷を振り返ってみたときに何が魅力的だと思っという話を聞くような機会を設けられたらいいんじゃないかなと思うんですね。外の人々がどう見ているか、あるいは外でこの地域を注目している人たちがどう見ているかということをもう少し情報を入れていくと、動きやすくなってくるんじゃないかと思っております。これは私からの今後の活動についてのご提案でございます。

そんなことを申し上げておいて次に行きたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。何かこの際、ご発言のある方はいらっしゃいますか。

それじゃ、そうさせていただきます。議事1. 各種委員会での検討結果については、今の2つのご報告を了承したということにさせていただきます。

それでは、議事2. リニアのまちづくりビジョン素案について 事務局から説明をしていただきます。

それでは、お願いいたします。

**【事務局】** それでは、ご説明申し上げます。

本編は120ページ近くのボリュームがございますので、資料2のリニアのまちづくりビジョン素案の要点にてご説明をさせていただきますので、よろしくお願いたします。なお、項目ごとにグレ

一の網かけをしてございます。その部分が素案の本編の関係箇所になりますので、場合によってはそちらのほうをお開きいただきご確認いただければ幸いに存じます。

今回ご提示させていただきました素案でございますけれども、前回までの委員会のご議論を踏まえ、序章を含めて8つの章立てでまとめさせていただきました。項目立てにつきましては若干変更した部分もでございますけれども、序章から第3章までが前段としての基本事項の整理になります。それから、第4章がビジョンの中核部分。第5章は、第4章を分野ごとにブレークダウンしまして、市民の皆様と一丸となって取り組むべき具体的な方策を整理しております。これらの内容につきましては、今ご報告いただきましたように、地域委員会、女性・若者委員会、幹事会、本策定委員会のご意見をもとに、それらを随所に織り込みながら組み立てておるところでございます。第6章では基盤整備と土地利用の整理。特にリニアと関係の強い部分、そういったところを重点的に整理しております。第7章では、今後の取り組みの整理と市民一丸となって14年間取り組んでいくこととしまして、重点プロジェクトという形で整理をさせていただいております。

それでは、要点の1ページをお願いいたします。

序章の目標年次のところをお願いしたいと思います。当面は、名古屋開業の2027年が重要な節目と認識しておりまして、これを当面の目標とさせていただきたいと思っておりますけれども、やはり大阪開業時がリニア本来の効果を発揮するということから、そういった面を考慮しまして、最終の目標到達点としましては、大阪開業後の5年後、ちょうど切りのよい2050年、本当にまだまだ先の話でございますけれども、そちらを1つの目標到達点として、この時点でこうしたまちづくりができていればいいなど、そんな考えで組み立てておるところでございます。

第1章の1-1につきましては、リニア中央新幹線計画の概要、リニア駅や車両基地について公表されている内容、一部私どもの推測的なところも織り込ませていただいておりますけれども、そういったものを書いてございます。

それから、1-2は、国、JR東海のこの数年の動き、他に先駆けて先進的な取り組みをしていただきました岐阜県、経済界、市議会、市民の会などの各主体の取り組み経緯、それから、本市の今の策定組織などについて、記述をさせていただいております。

要点の2ページをお願いいたします。

第2章では、本市の現状と時代潮流の整理をしておりまして、本市の現状につきましては、これも特にリニアと関連の強い事柄を中心に整理し、特に中津川市は交通の要衝として道で発展してきたまちでございます。そうした市のルーツ、名古屋都市圏とのつながりのほか、本市の地域資源の強み、弱みという観点から、客観的に地域資源を捉えることを目的としまして、甲府や飯田などリニアの沿線都市との比較により、産業構造、観光、特産品などの特性を整理しております。

次に、第3章の3-1でございます。これはリニアがもたらす波及効果として、駅設置、車両基地立地、知名度アップや建設工事に伴う経済効果といったものをその他の波及効果ということで、3つの切り口で整理してございます。

3-2では、リニアがもたらす変化として、地域構造の変化、名古屋都市圏と一体となった発展、首都圏・大阪都市圏との直結による新たな可能性、そういった3つの切り口から整理をしておるところでございます。

要点の3ページをお願いいたします。

第4章がビジョンの中核的なところでございまして、4-1で理念、4-2で基本方針、4-3で戦略、4-4で取り組み方策という流れでまちづくりの方向というものを組み立てさせていただいております。これは本編の35ページにこの構造を示した図を入れておりますので、ご覧いただければと思います。

まず、4-1のまちづくりの理念についてでございますけれども、リニアの駅ができることは、時速500キロのリニアが通るということで時間距離短縮、それから、東海道新幹線をお使いになっておられる多くのお客様がこちらにシフトしてくる、そういったことは1つの変化でございますけれども

も、これが様々な我々のまちづくりの可能性を広げていただけるわけですが、これをただ単なる変化ではなく、しっかりプラスの効果として波及効果に転換していくことが大事だろうと。そのためには、戦略的な施策といったものを推進することによって初めて達成できるという考えでございます。その意味で、交流拡大と移住・定住の促進といったものを中心に中津川市の力を高めていきまして、その一方で、豊かな自然でありますとか固有の歴史文化などの「なかつがわらしさ」といったものを後世に引き継いでいくことにより、持続的に発展していく中津川市を市民の皆様と一丸となつてつくっていききたいという考えでございます。

そこで、まちづくりのキャッチフレーズといたしまして、「リニアが停まる日本一便利な“いなかまち”日本の真ん中、訪れてよし・住んでよしのなかつがわ」というふうに提案させていただいております。これは、リニアが停まる田舎まちというようなところというのは、中津川市のほか、飯田市もそういったところになると思いますけれども、それから、日本の真ん中ということになりますと、中津川市というのがほぼ真ん中に来るということで、大阪都市圏、それから、首都圏のちょうど真ん中に来て、なおかつリニアが停まるこういうまちというのは中津川しかない。それから、首都圏から50分で来られて、駅を降りたときに、自然のいっぱいの田舎らしいところというのは他にはないだろうと、そして、こういうところを後世にもずっと残していきたいという意味で、「日本一便利な“いなかまち”」としたものでございます。日本一不便な田舎まちというのは幾らでもあると思いますけれども、「日本一便利な“いなかまち”」と「いなかまち」に込めた思いというのがそこでございます。

こういった議論を幹事会等でさせていただいておるところでございますけれども、やはり田舎まちという言葉の響きに少し違和感を持たれる市民の方もおられるのではないかとといった議論もございました。そういうことを踏まえまして、私どもは、いろんな角度から、対案ということで6つほど出させていただいております。

その中の6番目のところにつきましては、幹事会の中で、リニアの沿線の中で中山道が通っているというのは中津川だけでございます。中山道という中津川市の独自の資源ということ踏まえて、6番目のところには、原案に「中山道のいなかまち」という言葉を入れさせていただきました。

それから、1から5ということでいろんな切り口からご提案させていただきました。「リニアのホームタウン」というのは、中津川にできる車両基地をイメージしております。リニアが1日稼働して、疲れたら中津川の車両基地に帰ってきて休むといったイメージ、温かな雰囲気というイメージに、拠点、ふるさとというようなことをかけて、そういうホームタウンが中津川であるというような意味も込めて今後のシティーセールスの面も含めてございます。

それから、岐阜県の清流の国のイメージ、それから、「リニア宿」には、街道を意識した、新たな道のリニアの新たな宿といったイメージで、「清流の国“リニア宿・なかつがわ”」というご提案でございます。

それから、同じような観点でございますけれども、もう少し一般的な言葉で、「水と緑のリニアのまち」というような形で対案として出させていただいたものでありますとか、「リニア都市圏7千万人の“癒しの里”」というようなものでありますとか、それから、「“リニアのよさ”と“田舎のよさ”」というような言葉を使い、違う表現で表したところがございます。

こういったものにつきましては、策定委員会でもご議論いただければと考えているところでございます。

それでは、もとに戻りまして、4-2のまちづくりの基本方針でございます。

これは、基本理念を達成するためにどのような方向でいくか、中長期的なものから短期的なものまで、少し「ごった煮的」に入れさせていただいておりますけれども、こういった5つの方針に基づいてやっていきたいというのが思いでございます。

1つは、波及効果を産業の活性化と市民の暮らしに活かすということで、これが、先ほど申し上げました交流拡大と移住・定住の促進というところと直結する部分でございます。

2つ目は、リニアの建設の経済効果です。これは、非常に15年間という短い期間のものですけれ

ども、それを15年間の効果にとどまることなく、次のステップにつなげていけるようなことも考えていきたいといったことで盛り込ませていただいております。

3つ目は、開業に伴う様々な影響、いろんな形で中津川が変わってくる。そういったものに対して事前に備えていく。それから、多様な産業、観光といったものについてのシティーセールスなどを、先ほど委員長の方からもお話がございましたけれども、市にゆかりのある方、そういった方にしっかりご協力いただきながら進めていくといったことを織り込ませていただいております。

4つ目は、中津川市だけが発展すれば良いということじゃなくて、県内、周辺地域の皆様と一緒に一体的に発展していくといった「広域的な役割も果たさせていただきたい、そういったところで頑張ってもらいます」という気持ちで入っております。

最後の5つ目は、都市計画には厳しい規制といったものも必要となってくることも含め、今後の基盤整備については地域の皆様のご理解とご協力が最優先であることを位置づけてございます。

4-3のまちづくりの戦略につきましては、先ほどの第3章の「リニアがもたらす変化」に対応する形で、地域の普段の暮らしを充実させる。それから、名古屋都市圏の活力や求心力の向上効果といったものをしっかり活かしていきたいといった考えでございます。特に名古屋都市圏というのは、私どもにとっても、名古屋都市圏の方にとっても日常交流圏でございます。観光レクリエーション機能でありますとか地場産品の魅力を、日常交流圏という位置づけの中で売り込んでいきたい。そこが、戦略3の首都圏、大阪都市圏と直接つながる効果とは差別化しているところでございます。それはどうということかといいますと、首都圏や大阪都市圏からみると、中津川はなかなか馴染みのないところであり、非日常の圏域ということでございます。それを逆に活かして、低い認知度というのを逆手にとり、その分伸び代があるというふうに前向きに、ポジティブに受け取って、新たな視点で人や物を呼び込んでいろんな方向へつなげていく。それによって市民の皆さんの暮らしもそういったものを活かすことで向上させ、いろいろな課題解決にもつなげていくことといった考えでございます。

それから、4-4の取り組み方策になりますけれども、これは12の方策で組み立てております。これは、次の第5章のところと完全にリンクをさせております。交流という部分を、「訪れてよし」というくくりで、観光と地場産品的なことを方策の1から6までに位置づけております。

地域資源を磨くということが方策1になり、方策2としては、「観光消費があつてこそその観光」であるといったことで、そういったことに資する体験・滞在型観光の推進、なるべくここでお金を落とさせていただいて、長い時間楽しんでいただける観光スタイルを売り込んでいくといったことを書いてございます。

それから、広域連携でございます。中津川だけの力ではなく、有名観光地といったところとタッグを組んで、点から線に、線から面にと広域観光を展開し認知度を高めていきたいといった思いでございます。

4ページをお願いいたします。

売り込みとおもてなしということで、売り込みについては、先ほど申し上げましたように、多様なチャンネルを活用して売り込んでいく。それから、リピーターとして何度も訪れていただくことが大切という整理でございます。

それから、地場産品については、観光と絡めての積極的な売り込みが大切であり、観光客の皆様実際に触れてもらうというチャンスができるわけですので、それをきっかけに強力で売り込んでいきたいと整理したところでございます。

それから、まちのにぎわいづくりということで、中津川の持っている和菓子でありますとか、地酒、五平餅、ご当地グルメ、そういったもので観光客の誘致を図って、より魅力ある中心市街地をつくり上げて、課題となっている中心市街地の活性化を図っていくという考えでございます。

また、各地域の商店街も穴場スポットとして観光と絡めて高めていき、それによって商業弱者、買い物弱者の皆さんの買い物の場も確保していきたいという思いでございます。

それから、方策7から12でございます。こちらは、「住んでよし」というくくりで、暮らしを重点

的に取り上げた取り組みでございます。工業、農林業など幅広い産業の人材育成を図り、また新たに車両基地といった全くこれまでになかった分野への進出というものを促進していくという整理でございます。

それから、方策8は人材の育成、後継者確保、方策9は建設段階での経済効果に取り込むとしております。

それから、方策10は暮らしの充実ということで、医療、福祉といった市民の暮らしの基礎的な部分の充実を図って、移住・定住、市民の皆様が安心して暮らせるまちをつくっていくということを書いてございます。

それと同じように、方策11では、子育て、教育環境といったものの充実と、方策12で、トータルとして、首都圏や名古屋都市圏から様々なニーズに対応する形で地域の持っている地域資源といったものとマッチングさせて、そういった受け入れエリアというものを形成していきたいといった思いでございます。

それから、4-5につきましては、これは、県土及び周辺地域一体のまちづくりに向けてどんな役割を果たしていくべきかというところの整理でございます。1つは、やはり交通結節機能ということで、私ども中津川市にできる駅というのをしっかり機能させていく。それと同時に、「癒しの非日常空間」ということで、首都圏から訪れる方に中津川、岐阜県について、この辺はいいところだなというイメージを持っていただけるようなところにしていきたいという考えでございます。

次に、アクセス機能につきましても、やはりリニアの高速性を活かして、広い地域にお客様が行くことができるよう、駅勢圏を広く持てるような形でそういった機能を整備していきたいと考えています。これは私どもだけでできることではありませんので、国、県のご協力をいただきながらご相談してやっていくことというふうに考えておるところでございます。

それから、東濃圏域の連携強化ということで、これはいろんな面で各市の強みというのを結集して、固まり感を持ってこの圏域の機能を高めていくといったことでございます。リニア駅ができることで圏域の求心力が高まると思われますので、東濃圏域をはじめ、下呂市、南木曾町、周辺隣接地域なども含めて、しっかりと連携を強化していきたいという思いでございます。

4-6につきましては、今、両委員長の方からご説明いただきましたので、割愛させていただきます。

それから、第5章につきましても、今申し上げました第4章のそれぞれのブレークダウンになります。項目ごとに枝番をつけまして、こういったことに取り組んでいきたいという整理になっています。中味につきましては、各委員会等いろいろな形でご意見をいただいた項目を可能な限り入れております。こういうものはかなり難しいなというものの中にはございます。ここの何分の1だけでも実現できれば、相当なことができるというふうに考えております。このあたりにつきましては、今後の取り組みを私ども行政だけでなく、地域の皆さん、経済界の皆さんと一緒に、選択と集中というような視点も必要かなと思いますけれども、そういった形で組み立てて、より効果的な施策を実際に打ち出して進めていくことが大事と考えているところでございます。

第5章につきましては、ちょっと細かなところになりますので、それぞれお持ち帰りいただきまして、お読みいただければありがたいというふうに考えております。

第6章になりますけれども、これは基盤と土地利用の関係でございます。この部分の資料につきましては内部調整で遅くなりまして、当日配付となりましたことをまずお詫び申し上げます。基盤整備につきましては、6-1、6-2、6-3、6-4ということで4つに分けてございますけれども、1つは、交通アクセスの問題、それから、リニア駅とリニア駅周辺についてどうやっていくか。それから、6-3になりますけれども、車両基地とその周辺を含めて、市域全体の開発について住宅用地でありますとか企業用地といったものをどんな形で開発していくべきかという方向の整理でございます。まだリニアの駅、車両基地の位置というのが今年の10月頃までは明確になってまいりませんので、方向性だけを示して、今後、具体的な位置が決定した段階で詳細な部分を組み立てていきたいと



考えているところでございます。

最後の6 - 4は都市計画に関する記述になります。まちづくりのルールとして、どんな形で規制をかけながら、良好な環境を整えていくかといったところを記述してございます。

7ページにお戻りいただきまして、一番上のところでございます。交通アクセスにつきましては、大きなくくりでは広域的な道路、それから、地域内の道路網でありますとか生活道路、それから、公共交通というようなくくりでまとめています。広域道路網につきましては、東西南北の道路網ということで、中津川はそういった交差するところに位置しております。東西につきましては、国道19号の恵中拡幅などをはじめ、道路機能はかなり高くなっていますが、南北も含めて十分でないところがあるとすれば、そういったところの機能を高めていくことが必要であるという整理でございます。特に南北軸につきましては、今、岐阜県を中心に議論していただいております濃飛横断自動車道、それから、従来から要望しております三河東美濃連絡道路といったものが機能すれば、東海環状自動車道の外側にまた1つの軸ができて、北陸から三河まで含めた幅広い交流軸になるのではないかといった思いで書いてございます。これは本当にここ10年、20年というようなことではなくて、それ以上かかるかもしれませんけれども、長期的な視点で取り組んでいきたいといった思いを込めております。

次に、広域アクセス道路につきましては、こうした東西軸、南北軸とリニア駅とを結ぶ道路の整備が大事だという考え方でございます。リニア駅と中央自動車道と国道19号は、位置的には中央自動車道と国道19号というのが並走しておりますので、そちらの方向については、1つの視点で考えていけば、大体機能としては発揮できるのではないかと、そういった考え方でございます。今の美乃坂本駅周辺というのは非常に道路が脆弱な状況にございますので、何とか1つ大きな軸につないでいきたいという考えでございます。

次に、リニア駅と国道257号のアクセスにつきましては、中津川市は南北に長い市でございます。特に257号沿線には恵北地域の地域がづらなっており、また、下呂、高山方面の直接的なアクセスルートになるところでございますので、ここは非常に大事だろうという考えでございます。そういったところを岐阜県のご指導、ご協力いただきながら強めていきたいという思いでございます。

次に、地域内道路と生活道路につきましては、まずは坂本と中津の顔である中心市街地といったものを有機的に結びつける環状道路が必要ですが、坂本地域の環状系の構成とともに、都市計画道路などはしっかり機能していない部分がございます。そういったものも含め議論し見直していくことが必要という整理をしてございます。

次に、工事用道路につきましては、どのような枠組みで整備されるかということは現時点ではわかりませんが、JR東海でありますとか市の方で用意するとか、いろんなパターンが考えられますが、工事完了後も有効に活用していきたいといった考えでございます。

次に、生活道路につきましては、ただ今脆弱な道路状況ということを申し上げましたけれども、外から交流系の車両が新たなに地域に入ってきてまいります。そういった中で、やはり地域の皆様が安心して暮らせるような形で、アクセス道路と生活道路というものはしっかり機能分担をしていくべきだろうということ整理してございます。特に、工事期間中も含めて、地域の皆さんの安全を確保していきたいという考えでございます。

次に、公共交通につきましては、特に鉄道事業者様、バス事業者様などへの要望的なこととなりますけれども、乗り換え時間の短縮でありますとか、中央本線のダイヤの強化、それから、バス、タクシーにつきましても、路線バス、直通バス、観光タクシーの設定など、そういったものについてご協力いただければありがたいという思いでございます。それから、首都圏等から来られる方につきましては、レンタカーが非常に有意義な交通手段になるだろうと考えております。そういったものを駅の交通広場のどこかに機能的に配置していきたいと考えております。

6 - 2になります。リニア駅周辺につきましては、先ほどからも申し上げておりますように、中津川らしいものを前面に出して、交通結節点として特化した機能整備と、中津川らしい雰囲気というものを形成していきたいという思いでございます。

特に、交通結節機能として必要な5つの機能としまして、「乗り換えがしやすい連絡通路」でございます。これは美乃坂本駅に併設、もしくはできる限り近接」という想定に基づき組み立てています。そこに駅ができるというような確約は全くございませんけれども、これを1つの考え方として置いて、考え方を整理したというものとご理解いただければと思います。そういったことで在来線とリニアとの連絡通路というものも考え方としてあるだろうというものでございます。

次に、「気軽に利用できる駐車場」につきましては、非常に周辺地域の皆さんのニーズが高いと考えております。立体とか平面とか、いろんな形態を考えていくべきだろうと考えております。それから、「送迎に便利な乗降スペース」、「情報発信と案内機能を持つ利便施設」、それから、「楽しく土産物を買える物販スペース」、そうしたものを用意していきたいという考えでございます。

次に、(2)のリニア駅周辺につきましては、リニア駅の駅前だけではなくて、その周辺も含めて、やはり中津川らしいところを残していきたい。開発と両立した自然や田園風景と融合するようなまちづくりを進めていきたいという考えでございます。

8ページをお願いいたします。

ここは、先ほど申し上げましたけれども、「交通結節点に特化したコンパクトな商業機能」、決して大規模な商業施設を誘致するとかという考えではなくて、中津の中心市街地との役割分担の中で、地域商業的なコンパクトなスーパーマーケットでありますとかコンビニでありますとか、そういったものの立地を否定するものではございませんけれども、交通結節点としての、それに見合った商業機能というものが大事だろうという考えでございます。

次に、「交通結節点としてのメリットを活かした駅前居住」につきましては、区画整理事業など様々な手法を考え、十分な敷地の区画設定をして、多世代にわたって住んでいただけるような形で駅前の居住といったものも有益と考えておりますし、駅前整備に伴う家屋移転とか、そういった形でご協力いただく市民の皆様の代替用地というような形でも確保していきたいと、そんな考えでございます。

次に、6-3は、「地域の活力につながる車両基地と秩序ある開発」ということでございます。「車両基地」そのものは、JR東海の事業の中でつくられることでございますけれども、非常に規模の大きな施設でございますので、地域住民の皆様、地域コミュニティに極力配慮していただき、横断道路を入れさせてもらうとか、そういったところが大事と考えているところでございます。

次に、「車両基地周辺」につきましては、関連企業の立地、住宅の立地、周囲の環境に配慮しながら需要に応じて適正な開発というものを誘導していきたい。これは基本的には民間の誘導が大切と考えています。

次に、「市域全域」におきましても、各地域の特性にマッチした企業、施設などを誘致していく。学術研究的なものから先進医療でありますとか、様々な本社機能、そういったものも今の首都圏のリスクが高まっているということも踏まえながら、あらゆるそういったものの誘致を考えていきたいというふうに考えております。

次に、住宅用地につきましても、勤労者向けの住宅用地、周辺部の自然の豊かな地域などの空き地や空き家、遊休農地といったものを活用しながら、そういったところに住みたいという方のニーズとしっかりマッチングさせていくということが大事であろうと考えています。

次に、用地の確保の手法につきましては、やはり先行投資的な開発というのは今の時代の流れとはちょっと違うというふうに考えております。しっかり需要を見極めること、民間企業のスピード感のある用地確保ニーズに迅速に対応できる仕組みをつくっていくべきという組み立てをしております。

6-4の「中津川らしさを守るまちづくりのルール」につきましては、駅周辺、坂本地区、それから、都市計画区域、市全域というくくりで整理をしております。

「駅周辺」につきましては、土地区画整理などの手法を用いて、交通結節点として必要な商業機能のコンパクトな整備や、駅前の環境、景観の維持、保全などを地域の住民の皆様のご理解をいただきながら、地区計画といったきめ細かな「オーダーメイド規制」などを検討していきたいと考えています。

次に、「坂本地区」につきましては、必要に応じて、用途地域の指定を考えていくことも必要だろうと考えております。

最後に、「市全域」につきましては、大規模建築物の色彩、高さなどの規制については、坂本地区だけではなく、中山道沿いでもありますとか、恵北地域など豊かな自然に恵まれた地域について、現行規制を強化するような検討も必要があるという整理でございます。

次に、最後の章となります第7章の「今後の取り組みと重点プロジェクト」についてでございます。

これは、今後の取り組みということで、2050年までのスパンで、前期、中期、後期、それから、名古屋開業以降の推進期、大阪開業準備期、そういったものを年代別に分けて整理してございます。JR東海の工程に合わせて当面は進めていくことになろうかと思っておりますけれども、JR東海の実施される工事への対応と、それから、まちづくりのソフト、ハードといったものについてどのように進めていくかということを経営的にまとめてございます。具体的な年月やスパンにつきましては、詳細がまだわかりませんので、大まかな流れとして示させていただいております。

次に、7-2ですけれども、「市民みんなで取り組む重点プロジェクト」ということで、本来、プロジェクトといいますと、具体的な事業ベースでこういったものやっていくということになりますけれども、これはビジョンの段階でございますので、市民の皆さんにまちづくりへのイメージを持っていただけるよう、「こんなことを重点的に取り組んでいくんだな」と思ってもらえるような形で5項目を挙げさせていただいております。

1番目は、体験・滞在型観光を推進していきたいと。これは、事業者の皆さん、地域の各団体の皆さんと連携して、中津川に来ていただき、様々な体験をしてもらって1日を過ごしていただくということを中心に組み立てました。

次に、2番目につきましては、先ほど申し上げましたように、ありとあらゆる可能性を追求して、新たな企業や様々な機能を誘致して、雇用拡大につなげていきたいと考えております。

3番目は、これは、「中津川で暮らそうプロジェクト」ということで、地域特性と居住ニーズをマッチングさせて本市に移り住んでいただく取り組みを市内全域で進めたいという思いでございます。

4番目は、「リニアのホームタウン、リニア車両基地を活かそうプロジェクト」につきましては、観光振興、移住・定住、それから、産業振興という3つの幅広い視点で、他の沿線都市にない車両基地というものをしっかり活かしていきたいという考えでございます。

最後の5番目の「駅前づくり」につきましては、美しい自然・景観に溶け込んだ「癒しの非日常空間」を創出していきたいといった考えでまとめています。

本当に速いスピードでご説明させていただきましたけれども、以上で説明を終わらせていただきます。

**【委員長】** どうもありがとうございました。

大変膨大な素案という冊子を大急ぎで、しかし、丁寧に説明をしていただきました。このビジョンの素案につきまして皆さんのご意見を伺いたいと思いますが、まず、何か今の説明でご質問はございましたか。

特にすぐにご質問はないようですから、それじゃ、どこからでも結構でございます。質問も兼ねてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

**【委員等】** キャッチフレーズなんですけれども、私は幹事会の方にも出席をさせてもらっておりますので、その前の幹事会の時にこれを見せていただいたわけなんですけど、言いたいことが全部並べてあって、ちょっとくど過ぎるんじゃないかなと。デコレーションケーキのような感じがしますので、中津川の和菓子のようなさらっとした、もう少し短いものにできないかなと、そういうふうに感じました。

それから、キャッチフレーズですので、印象的な宣伝文句と辞書には書いてございました。人の気

を引くような印象的な宣伝文句と書いてありましたので、「いなかまち」というのはちょっとどうも私は好きになれないんですけども。「訪れてよし・住んでよし」というのも、これは補足の説明のほうに回すべきであってというようなことを私も考えました。どういう段階で決定されるかわかりませんが、もう少しさらっとシンプルなのをお願いしたいと思います。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

別紙を用意されて、キャッチフレーズもいろんな案がまだ列挙されている段階でございますので、ただいま言っていただきましたようなご意見をぜひたくさんいただいて議論していくことが大事だと思います。このキャッチフレーズに関連して、他にご発言のある方はいらっしゃいませんか。印象的なお話でも結構でございますので。これは、いろいろ意見は分かれますけど、しかし、大事な話ですので、今もご意見がありましたように、すっきりと、ぴたっと決まるキャッチフレーズをつくれるかどうかというのは大事なことなんですよ。いかがでしょうか。

【委員等】 私もただいまの意見と全く同意見でございます、これが対内的な内部のものであれば長くてもいいんですが、対外的に意識したものであるなら、これは長過ぎるというふうに感じます。例えば、ここに出ている原案の中で、リニアが停まる日本の真ん中なかつがわ、そのぐらいで十分ではないかなというふうに考えます。ちょっとごてごてし過ぎていると思います。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

表現上といいますか、形式の話もさることながら、このキャッチフレーズで何を訴えかけるかという内容も大事だと思うんですけども、このあたりのところでも何かご意見のある方、いらっしゃいませんか。要するに、中津川あるいは東濃の地域の良さを言おうという。

【委員等】 何回もすみません。ちょっと長過ぎるんじゃないかということをお願いした手前、私も、目が覚めた夜中にいろいろ時間をかけて考えておりましたら、やはりちょっと資料をいただいた分で2つ目の文だったと思いますけれども、「清流の国」という言葉と「リニア宿」という言葉が非常に気に入って、それと、日本の真ん中ということは、皆さんご承知のとおり、日本地図、多分本州だけかなと思いますけれども、ぴたっと折っていただくと、ちょうど真ん中あたりに恵那山から中津川あたりがおさまるような気がしておりますので、「日本のど真ん中 清流の国 リニア宿・なかつがわ」と、これだけでいいんじゃないかなと思ひまして私は考えました。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

どんだんご意見を。思いつきでも結構でございます。いかがですか。

私がこのキャッチフレーズを見せていただいたところでも、田舎というのはやはりいろいろとこれは考える人がいるだろうなという気がしまして、田舎の良さというのは確かにあるんですけど、私も地域づくりを専門にしているいろいろ研究したりしておりますときに出す報告書では、やっぱり田舎というのはなかなか言いにくいところがあるんですね。地方の良さなんていうことは、盛んに私は書いて発表しているんですけども。そういう何かいい表現法はないかなという気がしております。ただし、本当に田舎の良さだけを訴えたいのかということなんですよ。

ちょっと話は長くなりますけれども、私は、大分年をとっておりますから、古い話で、「青い山脈」という映画を観たことがあるんですね。「青い山脈」という映画はたくさんありまして、一番最初の原節子や池部良が出た作品の撮影場所は何処だったのか判りません。いま映像を見てみると、一寸おか

しいのですが、海岸地方だったように見えます。その後の2代目の映画は司葉子や雪村いづみが出演したもので、松林宗恵監督のもので、これが恵那で撮られたもので、これを中津川で撮られたという説もあるのですが、なにか駅前風景は中津川だったようです。いずれにしてもこの辺り、「青い山脈」のイメージなんですよ。「青い山脈」の良さというのを私は地域の佳さとして強調していくのがいいんじゃないかと思っているんです。その「青い山脈」というのはどういう意味かということなんですけど、大分お年を召した方もいらっしゃるから映画を観ておられる方もいると思うんですけども、映画は、原作の石坂洋次郎の小説もそうですけれども、「青い山脈」というのは山のことだけ言っているんじゃないんですよね。青い山がずっと連なっているいい地域だということは言っているんですけど、それと同時に、あの映画で描かれているというのは青年たちなんです。若い世代たちが自転車で走り回って、舗装もしていないでこぼこの山道を自転車で駆けずり回りながら、今日より明日はよくなるぞという希望に燃えて「明日」を語り合う、エネルギーに動き回るといって、そういうモチーフを持っているんですね。青春の「青」もあるんですね。やまの「青」と合せて、その組み合わせというのは、私はとてもこの地域にふさわしいと思っております。

さらにひっかけますと、今は中津川市内になっちゃったんですけども、馬籠。島崎藤村の『夜明け前』という小説がございますね。あれは、あのあたりで青山半蔵という人の若いころからのずっと活躍ぶりと他の地域との交流が描かれている。あの時代に彼は宿の、本陣の当主でありますけれども、すごく神道にも関心を持っていて動き回りますね。つまり、あの時代の交流を押さえているんです。それで情報がどんどん入ってくる。それで、明治維新というのが起こってくる夜明け前を彼らは捉えているんですね。そのモチーフは、そのまま「青い山脈」とつながるところがございます、考えてみると、今、やはりリニア時代というのがこの15年先に始まるとすると、その「夜明け前」なんですよね。

そういう夜明け前の場所に、また夜明け前のチャンスがめぐってきた。それに「青い山脈」の映画で描かれたような、自然は美しく、そして、その中に若い人たちの活動がみなぎっているというイメージ。これはいいんじゃないかと思っております、そういうものを今おっしゃったように短いキャッチフレーズで表現できるかというのではないかなと思っております。私もあまりこういう言葉をつくり出すのがうまくないものですから、こういう長目のお喋りをしまして、皆さんの中で、それならこれだとセンスのよいキャッチフレーズが出てこないかと思っております。

いかがでしょうか、ご意見は。

**【副委員長】** 私は、今回の事前配付の資料をいただきまして、まさしくこのキャッチフレーズを見させていただいたわけです。真っ先に、田舎、どうしてここでそういう名前を使うんだ、本音からそういうふうに感じました。しかし、いろいろずっとその言葉を振り返って見たときに、しょせん中津川なんて、他と比べたらやっぱり田舎じゃないかと、そんなところで背伸びしたってしょうがないじゃないかと。多分、そういうことではそれを自認していけば、それはそれとして味つけが出てくるんじゃないのかなというふうになんと私は感じました。

ただ、今日、皆さんの話の中にどうして田舎だという話があるように、かなりこの言葉の中には話題性が富んでいると思います。ですから、そういう部分では、私はキャッチフレーズとして皆さんの意見が集約されれば、これはこれとして私は認めます。ただ、私は、合併をした郡部のほうの出身でございます、実は、福岡町になりましたが、その昔は村だったんですね。村という言葉を使うのが若い時にすごく嫌で、それで、とにかく恵那の方やとか、中津川のちょっと奥のほうですぐらいの話を、そういうことを言っておまかしていた自分がいたことも確かなんです。そういう部分で、このキャッチフレーズが自信を持ってしっかりとと言えるような内容であれば、私はこれでいいと思うんです。ただ、そのことが出せないようなことであるなら、これはよく考えるべきだと思う。特に若い人たちの気持ちも十分聞かせていただければどうかと、こんなふうに私は思います。

長いか短いかについては、私はそれほど思いません。このことについてはそんなに思いませんが、

よく考えると、今、例えば、加子母地区では、逆に、村を前面に出していこう、そういうことで味つけをしていこうというふうにもやっていますので、中途半端な、丸くおさめるよりも、角を立てたキャッチフレーズというのも、非難はあると思いますけれども、それに耐えれば、それなりの一定の効果はあると私は認めます。

【委員長】 ありがとうございます。

他にご意見のある方はいらっしゃいませんか。

それでは、このキャッチフレーズの件につきましては、まだこう決めなきゃいけないというタイミングでもございません。多分この報告書が最終的にまとまるのはこの夏ぐらいかと思っておりますので、そういうときまで、もう少しセンスのいいものが出てくることを期待しまして、皆さんからご意見があれば、事務局の方にどんどん寄せていただくということでいかがかと思っております。ですから、それは、今日はここで結論は出さないで、いわば継続審議ということにさせていただいたらいかがかと思っております。

意見を皆さんに出していただくために、事務局は書式を皆さんに送付させていただきと言っております。3月中旬ぐらいまでの期限でご意見をいただくように今日の会議でお願いしてくださいとここに書いてございます。それでよろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 それでは、このキャッチフレーズに関してはこれで一区切りとさせていただきまして、それ以外に、このビジョンのことについて何か言っておきたいというコメントのある方はいらっしゃいませんか。

【副委員長】 それでは、ちょっと私の方の近況と意見を申し上げさせていただきたいと思っております。

最近、苗木城がいよいよフィーバーし始めておるということで、先週の土曜日に私も何十年ぶりかに苗木城へ参りました。これはすごいなど。岡崎ナンバー、豊田ナンバー、名古屋ナンバー、たくさん来ておりました。この観光問題を議論するときに、切り口が今風が変わってきたというふうに私は思っております。

その前に、中津川商工会議所、今年の、リニアへ取り組むという事業活動のキャッチフレーズは、「リニアに備えてふるさと発掘」ということで、この1月から事業活動を展開しております。

先ほどいろいろなお話をいただきましたが、この女性・若者委員会の前段を見せていただきますと、観念論が多いなというふうに思いました。例えば、中津川らしさ、らしさが深掘りされていないなというふうに。ただ、この7ページ以降、いろいろなチャートが盛りだくさんございますが、これらやはり若者らしく現状認識をしながら掘り下げていく必要があるのではないのかなと思っております。

1つは、教育の問題をとりましても、子育ての問題1つとりましても、中津川の現状というものを考えたときに、私は、リニアが来たときに移住・定住を増進させるためには、中津川の教育をどこにも負けないものにしていかなければいけないというふうに思っております。そういうところからまいりますと、現状はいいということ。じゃ、何がまずいということじゃなくして、もっともっと教育委員会をはじめとする関係者が前向きになるために、ここにおられる皆さん方も取り組んでいかなければいけないというふうに思っております。

それから、先週金曜日に、恵那、中津川両市の市長、副市長、商工会議所の正副会頭とのいろんな懇談をさせていただきました。その折に、恵那市ともっともっと連携していこうと、こういうことを、冒頭、私は挨拶申し上げました。その席で、東濃東部の団体として、坂本駅建設と思われる周辺に恵那と一緒に野立て看板をつくらうよということを申し上げたところでございます。

リニアの車両基地ができるということは、浜松の車両工場を想定してまいりますと、始発電車が出

るまちだということも1つ念頭に置いていく必要があるというふうに思っております。要するに、中津川らしさって何かということ。

それから、中津川から輩出した多くのいろんな方たちをこれから本当に掘り起こしていくというのも私たちの役割ではないのかなと、こんなふうに思っております。

要するに、現状認識をしながら課題を考え、さらにはそれをビジョンとしていく、理念としていく。観念論だけではこれからはもう。とにかく待ったなしという状況にもなっておりますので、10年ぐらいすぐ経っちゃいますので、ぜひ具体策を深掘りしながら進めていかなければいかんと、こんなふうに思っております。ちょっと抽象的なことで恐縮でございます。

【委員長】       ありがとうございました。

【副委員長】     今日は、非常に膨大なまちづくりビジョンということで、本当にご丁寧に書かれていて、内容も盛りだくさんになっている。それは本当にいろんなことを書かれていいと思いました。これをやっぱりちゃんと実行していくというか、誰がこの中味をやるんだということですよ。それがやっぱり一番大切で、1人で全部やっていけるわけではありませんから、とにかく一人一人が自分ができることをやるということが、まず非常に大切ではないかなというふうに思っています。

1点ちょっと気になるのは、もう今年の秋には駅の位置が発表される予定になっておりますよね。そうすると、もうあつという間に着工になります。三菱UFJが試算している結果では、経済効果としては建設中のほうが圧倒的に多いです、できた後より。ですから、まちを元気にしていく、地域を活性化していくためには、できるまでに、全体で1兆円ですね。毎年本当に工事費だけで1千億円ですし、そこから経済効果を図ったら1千数百億円分のお金がどんどん出てくるわけですよ。

それをいかにこの地域の中に落としていくか。黙っていたら、全部東京のほうに持っていかれちゃいます。ですから、そういうことを頭に置いて一人一人が意識しながらやっていかなきゃいけないのかなというふうに思います。

将来的な姿はもちろん、非常によくできたビジョンですので、そういうところをぜひ目指していただきたいと。本当にこういう姿になっていったら非常にいいなというふうに思います。

以上です。

【委員長】       どうもありがとうございました。

【委員等】       私も、今回、このビジョンのほうを拝見させていただきまして、非常にいろいろなことが盛り込まれていて、外から見てもおもしろいなという内容になっていると思います。特に観光スタイルのところは、前よりもずっと具体的な取組例が組まれていて、何をしたいんだろうというところも外から見てもわかりやすくなっている。じゃ、次にこの取り組み例を、いろいろなリニアの計画が進むに当たって各種報道がこの中津川を発信してくれる、その部分をうまく活かして、具体的に、例えば、今年是这样いった体験を行っていますよ、今年是这样いったイベントを行っていますよというような形で、せっかくの報道だとかPRという部分をうまく利用するというとちょっと言葉は悪いんですが、活用させていただいて、なおかつ具体的に今の中津川に魅力を感じていただきながら、今の中津川を知っていただくというような形でうまく報道等でPRしていく具体策をもう来年度からまさに始めていただければなというふうに考えました。

【委員長】       どうもありがとうございました。他にご意見のある方はいらっしゃいませんか。

【委員等】       今の副委員長のお話なんかを伺って、大変参考になる部分がありました。よくできたビジョンの素案だと思うんですけども、出てこないのは、行政としての、これからこのビジョン

を実現していくに当たっての組織をどのようにしていくかという話が見えないような気がします。これだけのものを実現していくには、中津川市の行政として相当の人員とコストを割いて対応していかないと、これはなかなか実現していかないのではないかとこのように考えるわけです。

私は、坂本地区というところに住んでいまして、現実の問題として既に私のところへいろいろ住民が言ってくるわけですが、主なものをちょっと述べてみますと、例えば、多分我が家は移転しなくてはいけないのではないかと、あくまで予測ですが、こういう方が納得のいく移転の対応を、行政として、してもらいたい。それから、田んぼや何かを買い上げてもらうと予想される人は、適正な価格で買い上げてもらいたい。それから、全体的な面では、乱開発は困る。行政としてどのような規制をかけてくるのか。そういったことが挙がってきています。

それから、こういったことに対応していくには、首長、議会、行政、その下に私どものまちづくり協議会というのがあるんですが、こういうのが一体化して対応していかないと、なかなかうまくいかないのではないかと。そういうことも全部含めまして、中津川市はこの巨大プロジェクトを受け入れるにあたって、市としてどういう行政組織をつくるのかというようなビジョンがちょっと欠けておるなというふうに感じております。今週末に市長とまちづくり協議会会長の会議がございますので、そこでも述べさせていただくつもりでおるんですが、そういうことを心配しております。

以上です。

**【委員長】** ありがとうございます。

他にご意見のある方はいらっしゃいませんか。他はよろしいですか。

**【副委員長】** 今後の進め方というところでお話をさせていただこうかと思いましたが、今後のことについていろいろ話が出ましたので、ぜひ私はこんなふうに感じたということだけお話しさせていただきたいと思っています。

現在の私どもの仕事は、リニアのまちづくりのビジョンをつくるのが今回の委員会の仕事だという認識でありますが、ここへ向かっていろんな組織が今回の策定のために動いて、いろんな案が出始めてきたということで、今日の女性・若者委員会のところに集約されているように、多少夢のような、具体性が欠けた部分はあるんですけども、私は、ビジョンですから、こういうふうでもいいんじゃないかと思えます。ただ、これを今後どういう形で具体化をさせていくかという、そのことがまさしくこれが一番大事なことで、後ほどの話の中にビジョンの完成までのスケジュールが書いてありますが、やはり、今回の冊子をつくるのが目的じゃなくて、現実にもそのビジョンを今後はどういうふうにして具体化をさせていくかというストーリーにぜひ入っていただきたいと、こんなふうに思っています。ぜひとも、まちづくり協議会の皆さんとか若者の皆さんの自由闊達な意見が行政にどういうふうに反映をされていくかという仕組みのところが大変なところであり、また、地域ごとのつくる味つけという部分が、地域特性というものを活かして取捨選択をしていく、市民がそういう立場にないとか特徴ある地域づくりというのはできないんじゃないかと思えます。

ぜひ、私は、このビジョンの完成までの間に次のステップへ行くものをここである程度方向づけをしていただいて、秋以降には具体化になってきますので、もう既に片方ではビジョンはつくり終わったよと。じゃ、それをいかにもう少し具体化していくための組織づくりというのを模索していくべきではないかと、私はこんなふうに思って、今後の進め方というところになろうかと思えますけれども、そこに行政としてのどういういわゆる仕組みをつくっていくかということもぜひ検討いただきたいと、こんなふうに思っております。

以上です。

**【委員長】** ありがとうございます。

どうやら、今、皆さんから出てまいりました意見、全て、大きくくくれば同じところに指摘が集中



しているようでございまして。ビジョンのことからいきますと、第7章の今後の取り組みと重点プロジェクトというところの今後の取り組み方のところが、どうもまだ書き込みが十分でないということになってくるんだろうと思うんですね。これを進めていくための組織はどうなるのか、あるいは、行政と地域住民との関わり方をどう展開していくのかというようなこと、それから、隣接、特に恵那市との提携関係をどうしていくかというようなこと。

それから、来年に入って、来年度末か、あるいは再来年度に着工ということになると思うんですけども、その着工から10年間、工事の期間というのは非常に貴重なんだよと。もうすぐそういう動きが起ってくるんだ。それをどう利用していくかということについては、少し書き込みが足りないのではないかなというようにお話がございました。皆さん、そのあたりのところを気にしておられる。あるいは土地の手当てが早速動き出しますけれども、それに対して行政は事業者との間をどう取り持ってくれるのかとか、そのあたりのところをもう少し第7章のところに早急に書き込んでいくことが必要だということを皆さん指摘しておられるのではないかなというふうにまとめさせていただきます。

実は、私、1つだけ気になっているところがございます、第6章の終わりのほうなんですけれども、今の要点という資料の、資料2ですけれども、8ページの一番上に2項目あるんですけれども、要するに駅周辺です。新駅周辺の地域づくりということで、コンパクトなど書いてありますけれども、コンパクトな商業機能、それから、駅前居住。この2点をどのぐらいの大きなプロジェクトにするかどうかというのは、実は大問題であります。私自身は、この項目が書かれているだけで、まあ、書くんでしょよね、当然そういうことは考えなきゃいけませんから書くんでしょけれども、書かれているだけで非常に心配であります。

威勢のいい話で、これはどうしても大きな話にしがちなんです。いわゆる不良債権がたくさん出てくるという話になってくるわけですね。そういうこともありますので、これは実に慎重に、そして、中津川市あるいは隣接恵那市のまちづくりと慎重に連携しながら、あるいはもう一つの総合車両所の関連の従業員の宿舎の問題がございますから、そういうのと別の話じゃなくて、これを一体化させるのかどうか、そういうことを考えていかないと、これは規模が非常に重要です。ですから、これは慎重にやる必要があるだろうということを申し述べておきます。

といいますのは、商業機能の大部分なんていうのは、私は、駅ビルあるいは駅の連絡施設ビルの中に全部取り込んでしまうように考えたほうが良いというふうに考えているからであります。そうすると、駅舎はJR東海がつくると言っているわけでありまして、そこをどう調整して、ビル事業というのはどういう形でやるのか、民間事業として単純に動いてくれれば良いのであります。でも、それでも暴走するおそれがありますから、公共の介入のもとで民間の創意を利用して、できるだけ地元資本を使ってやっていけるような、今、PFI方式なんていうことがよく議論されておりますけれども、そういうような事業方式というのもそろそろ考えておかないといけない話ですよ。これはつくり出すのは大分後になりますからまだそんなに急がなくてもいいんですが、しかし、そういうことも第6章の中では触れていくべきだろう、あるいは触れるきっかけをつくっていくべきだろうというふうに思っております。

ということで、この議論のまとめとしては、第7章のところはもう少し書き込んだり、今後の取り組みというところ、書き込んでいくことが必要ありそうだとこの議論の結論とさせていただきます。よろしゅうございますか、皆さん。

(「異議なし」の声あり)

**【委員長】** それでは、これで議事2は終わらせていただきます。

それで、従来、策定委員会に出した資料は、皆、市のホームページにアップしてまいりましたけれども、この素案につきましては、今皆さんわかっていただきましたように、キャッチフレーズも含めてまだ検討、議論中でございます。そこで、作成途上でございますので、この後、パブリックコメン

トにかけてまいります、その段階においてホームページにアップするというにしたい。その時に全編をアップするというにしたいという事務局の意向でございます。この点も皆さん異議なくご了承いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 やはりこういうものは後で訂正が出たりしたときの反動がちょっと怖いものですから、まだ議論中のところは、この会議の資料の段階であるということにしておきたいということでございます。

それでは、議事2はこれで終わらせていただきます。

次、議事3. 今後の進め方について、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、ご説明申し上げます。

資料3をお願いしたいと存じます。

基本的に、これまでお示ししました内容と異なるところは、左下のオレンジ色で網かけをしておる部分でございます。私どもの計画といたしましては、従来どおり、5月に第5回の策定委員会を開催させていただきました。本日いただきましたご意見、それから、今後、書面等でご意見をお伺いします関係の内容を整理いたしまして、そこで修正案的なものをご提示申し上げたいと考えております。その後、7月から8月にかけて、最終的なさらなる修正、そういったものを含めましてビジョンを完成させて、その後、推進本部会議ということで、別途委員長から本部長の方へビジョンの提出といった形へ持っていきたいと考えております。

5月の策定委員会につきましては、私どもは、今のところ、できましたら5月17日の金曜日、午後あたりで調整できたらと思っております。また早急に調整いたしましてご連絡申し上げたいと考えております。

それから、最終のところでございますけれども、8月2日の金曜日を中心に、これも午後にできましたらというふうに思っておりますけれども、そんな形で調整をしてみたいと思いますので、何かご出席をいただければというふうに考えておるところでございます。

私どもは、これから、6つの会場でこの素案の説明を各地域協議会の皆様を対象として進めていきたいと思っております。そこでのご意見も5月の策定委員会に盛り込んでいきたいというふうに考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

【委員長】 この件につきまして、何かご質問のある方はいらっしゃいますか。

それでは、ご質問がないようでしたら、これは了承ということでよろしゅうございますね。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 それでは、本日の議事についてはこれで全て終了でございます。

議事全体を通して何かご発言のある方はいらっしゃいますか。ちょっと予定が遅れておりますのですが、もし何かご発言の方がいらっしゃれば、よろしいですか。

それでは、これで議事全て終了ということにさせていただきます。

事務局の方にお返しいたします。

【司会】 どうもありがとうございました。

それでは、次のその他の方に入らせていただきます。

その前に、商工会議所の方でリニアのバッジをつくられたようでございますので、商工会議所の会頭であります丸山副委員長よりご紹介をお願いいたします。

**【副委員長】** ご説明申し上げるまでもなく、拉致問題のバッジとか、オリンピック招致のバッジとかいろいろございますが、一番長持ちするバッジ、リニアでございます。14年間もちますので、今日お持ち申し上げました。ここにいらっしゃる皆さん方も多数つけておっていただくとと思いますが、私どもはいろんな施策を講じながら、2027年までのカレンダー、ポスター、バッジ、それから、会議所では施策推進委員会がいろんなビジョンと申しますか、もう具体策、やっていかなければいけない事業計画を鋭意構築いたしておりますので、またいろんな機会にお話をさせていただきたい。また、年内にJRがリニアの有料試乗ができるかどうかわかりませんが、中津川の子どもたちをリニアの有料試乗に連れていこうという企画もいたしておりますことを申し添えさせていただきます。今日お越しの皆さん方に配付をさせていただきます。よろしくどうぞお願い申し上げます。

**【司会】** ありがとうございます。

それでは、ただいまからバッジを配らせていただきますのでお願いいたします。

それでは、バッジを配らせていただいているうちに次の説明をさせていただきます。

先ほど委員長からお話ございましたように、ビジョンの素案とキャッチフレーズに関するご意見につきましては、また様式を配付させていただきますので、3月の中頃までにぜひお出しいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、大変長時間にわたりご審議、誠にありがとうございました。閉会の前に、新しく副委員長になっていただきました大井副委員長より閉会のご挨拶をお願いいたします。

**【副委員長】** それでは、第4回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会、大変熱心にご協議いただきました。いろんなご意見の中で、行政の取り組みがまだまだということでございますので、今後、皆様からいろいろなご意見をいただきながらしっかり取り組んでまいりたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

**【司会】** どうもありがとうございました。

それでは、本日の会議はこれで終了させていただきます。お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。

— 了 —